

◇ 卒業論文要旨 ◇

松阪市の都市地理学的考察

赤 沢 由 紀 子

松阪市は秀吉の部将蒲生氏郷の施工による城下町としてスタートし江戸時代に参宮街道の宿場町、また三井家の発祥地でもある商業都市として発展、そして今日の松阪市も第三次産業人口が多いことからやはり商業都市として性格づけられる。しかし、この古い伝統ある商都の地位も近くの津、伊勢、さらに名古屋、大阪の強大な商圏に圧倒され伸び悩んでおり、これらの都市への人口流出の問題も含めて、松阪市の体質改善が必要な段階に来ている。

一方、政府は、昭和50年代における日本経済の4大開発拠点のうちの1つを津、松阪を中心とした中南勢総合開発計画として設定し、大規模な臨海工業地帯の建設を期待しており、松阪市も公害問題には厳しく対処する姿勢であるが、この計画に参加するには積極的である。この計画を転機に松阪新都市計画がスタートしており、その1つで以前から大きな問題であった旧市内の道路整備が新町道路拡幅工事として行なわれつつあり、この工事を契機に具体化した、新町という商店街の、さらには商業都市のもつ問題を検討した。

小売店舗共同化について

商店街	賛 成	反 対	わからない	計
駅前通り	45.2	16.1	38.7	100%
新町1丁目	41.7	33.3	25.0	"
" 2	60.0	13.3	26.7	"
" 3, 4	61.5	7.7	30.8	"
" 5	25.0	37.5	37.5	"
本 町	40.0	20.0	40.0	"
中 町	53.5	17.9	28.6	"
日 野 町	57.1	28.6	14.3	"

昭和45年アンケート調査 市役所